

講義名	対)カウンセリング			授業形態	
担当教員	銅直 優子	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

カウンセリングは、対話を中心に行われる心理的援助を目的とするものであり、病院、カウンセリング機関、企業、学校や福祉機関など様々な領域で用いられている。同時に、カウンセリングが必要とされる応答技法は、心理的援助だけでなく、接客や日常生活におけるコミュニケーションの基礎としても活用可能である。
 本講座では、カウンセリングに必要な基本的知識と技法を解説する。また、カウンセリングの実験を学んでいただくために小グループに分かれての簡単な実習を行う。特にどのような姿勢で相談を受け、どのように受け答えをしていけばいいかについて重点的に学習してもらう。
 後半では、個人が成長するために集団においてどのようなアプローチを用いることが可能であるか学習してもらう。また、産業界でのメンタルヘルスの問題について紹介し、どのようなカウンセリング対応がなされているかについて学習してもらう。

到達目標

カウンセリングの現状について理解できるようになる。
 初回面接の仕方について理解できるようになる。
 初回面接の報告書が作成できるようになる。
 カウンセリングの基本的な技法を使って話を聞くことができるようになる。

提出課題

課題がある場合は授業内で説明します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

中間テストについては、テスト実施の翌週にテスト返却と解説を行います。

評価の基準

中間テスト（40%）
 定期試験（60%）

履修にあたっての注意・助言他

本来は講義の後半はグループワーク中心の授業であるため、積極的に授業に参加してください。

教科書

.使用しない。
 .必要な資料を適宜配付する。

参考図書

.心理学マニュアル面接法。 保坂享・中沢潤・大野木裕明 北大図書房

その他

授業計画

- 第1回 カウンセリングの基礎知識
- 第2回：初回面接の基礎知識
- 第3回：初回面接の実際 初回面接における観察視点
- 第4回：初回面接の実際 情報収集のスキル
- 第5回：初回面接の実際 報告書作成
- 第6回：基本的応答技法 クライエントの話を理解する
- 第7回：基本的応答技法 働かれた質問と答えられた質問
- 第8回：基本的応答技法 応答する際のポイント
- 第9回：基本的応答技法 感情、内容の反射
- 第10回：基本的応答技法 いいかえ、感情の明確化
- 第11回：基本的応答技法 基本的応答技法を使用した実習
- 第12回：自己成長のための集団アプローチ 集団アプローチの方法
- 第13回：自己成長のための集団アプローチ 集団アプローチを使った実際
- 第14回：産業界での諸問題と相談援助活動 産業界でのメンタルヘルス問題
- 第15回：産業界での諸問題と相談援助活動 産業界でのカウンセリングの実際

授業計画は受講者の要望と修得状況に応じて変更を加えていく。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

本授業では、復習を重点的に行ってほしい。
 各自のテーマに沿って下記の予習・復習を行うこと。
 予習：「来談者中心療法」「絶対帰郷」「心理初回名師」などの書籍に目を通しておくこと（予習時間：1時間）
 復習：授業の中で説明した理論について、配付資料やノートを見直し、ノートにまとめておくこと。また、授業内で応答技法のワークシートに取り組みでめらったり、事例の説明を行うが、再度自分でノートにまとめてみる。授業内で「基本的な応答技法」について実践的に取り組んでめらう場合があるが、各自、渡された練習問題を復習として取り組み、確実に応答技法を身につけていくよう心がけること。（復習時間：3時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

到達目標を達成することで、ディプロマポリシーの「人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造すること」や「コミュニケーション能力を身につけ、それらを、ビジネス、現地に実践的に活用すること、や求める「人の心理と行動の知識を有し、ビジネス場面と援助場面での心理学を応用すること」に貢献することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

レスポンスを通じて、授業内（授業時当日の場合や翌週の場合がある）で受講生の解答や感想を共有し、コメントを行っていく。

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」 授業で学んでいただくカウンセリングの基本的なスキルを、病院臨床のカウンセリングにおいて活用している。

備考